

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 26年8月5日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670104555
法人名	社会福祉法人 城山会
事業所名	グループホーム城山
所在地	鹿児島県鹿児島市長田町3番1号 (電話) 099-219 - 7211
自己評価作成日	平成26年4月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokoko
-------------	---------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成26年5月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム城山の魅力は、天然温泉が出ること、また城山の高台にあるので桜島やサマーナイト花火大会が一望出来る最高の絶景スポットもあり、入居者様との散歩に出かける際は必ずと言っていいほど立ち寄りのお気に入りの散歩コースになっています。また医療法人を母体とし、関連施設サービス、居宅系サービスがあります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

○ホームは、同一法人の介護保険老人施設や特別養護老人ホーム・通所介護施設等と併設された、桜島を望める見晴らしの良い高台に位置し、日当たりの良い散策や外気浴に適した環境にある。運営も一体的になされており、夏祭りを始めとする各種の行事や緊急時の対応など、相互に連携・協力できる体制が整っている。

○管理者は申し送り時や毎月のケア会議で職員の意見や提案を聞き取り、必要に応じて個別面談の場や食事会も企画するなど、日頃より話しやすい雰囲気づくりに努めている。得られた意見や提案を管理者や代表者で検討し、業務や提供しているサービス内容の見直しや改善につなげている。職員間の連携も良好であり、利用者の見守りや日々の関わりを通じてより良い支援となるように工夫を重ねている。

○災害対策として年2回は消防署や地域の民生委員の協力を得て、法人全体で避難訓練や消火・通報訓練を行っている。また、毎月自主訓練も実施して避難方法や通報の学習、訓練後の話し合いも重ねており職員の防災への意識は非常に高いものがある。

○職員の育成の面では、各種のマニュアル類は実際のケアに活かせるように具体的な内容で整備されるとともに、法人全体はもとより、ホーム独自の研修計画が具体的に立てられ、それに沿って実施され知識や技能の向上が図られている。

○利用者の食事への楽しみをより充実させるため、家族とも話し合いながら利用者の希望の把握に努め、寿司の出前・弁当持参の外出・ソーメン流し・バイキングや季節の行事食、郷土料理の提供など多くの工夫に取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	法人全体の理念に加え、わかりやすい言葉で地域との絆を念頭においた副理念に基づき各職員が目標を立て日々のケアに取り組んでいる。	法人全体の理念及びホーム独自の副理念に沿って各職員が日々のケア目標を設定して利用者の支援に取り組んでいる。理念は掲示及び唱和して共有を図り、毎月の職員会議やケア会議では意義や役割を振り返り理解を深めるように努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	立地、地域との交流が難しい面もあるが、地域の小学校の行事や法人主催の夏祭りに地域の方を招待したり、民生委員に相談を行い地域の方がボランティアに来て下さる。	近所の方が季節の花を届けてくださったり、中学生の職場体験学習や民生委員の見学、ボランティア等の受入れの他、法人の夏祭りには地域の方々の参加を得ている。また、地域の小学校の運動会等の行事の見学や小学生の来訪もあり、これらの交流を利用者は楽しみにしている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	運営推進会議時、地域・家族の方々から相談を受けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの状況や活動報告や相談・助言等を行い、様々な意見交換を行っている。地域行事への参加の誘いがあるなど、会議での意見が運営に反映されている。	会議は、利用者や家族・長寿あんしんセンターの職員・地域の民生委員等の参加を得て定期的開催されている。ホームの現況や行事・問題点に関する意見交換や避難訓練・防災対策等の話し合い、民生委員によるボランティアの紹介や地域の行事等の案内など行われ、内容は職員にも周知が図られホームの運営やサービス向上に活かされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	介護相談員の受け入れや長寿あんしんセンターへの訪問や連携、市役所の担当者との連携を取り、助言や指導を頂いている。	市の担当者とは訪問や電話での各種手続き等の際などに、運営や利用者の状況について確認や相談を行うなど連携を図りサービス向上に取り組んでいる。また、介護相談員の受入れ及び長寿あんしんセンターや市の職員の来訪などもあり、情報や意見の交換も行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人での身体拘束委員及びGH内での研修を行い身体拘束のない安全なケアに務めている。	居室や玄関の施錠は行っておらず、職員は連携して見守りの徹底に努めている。高齢者の権利擁護や身体拘束に関する勉強会は、法人の身体拘束委員会やホーム内で実施して職員の理解を深めてケアへの反映を図っている。また、職員会議やご家族との話し合いなどでも、安全を確保しながら利用者がその人らしく笑顔で暮らせるように支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体観察、状況把握に努めている。またマニュアルを作成し、勉強会を通して職員の虐待に関しての意識を高めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護に関する勉強会を開き職員の周知徹底を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時の契約の際、説明を行い同意を得ている。また不安や疑問点があれば十分な説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	年1回介護相談員が来られ、入居者の意見を聞き助言を頂いている。ご家族の面会時や電話等にて話ができる状況を作っている。玄関に意見箱の設置も行っている。また第三者委員会にも報告出来る体制をとっている。	利用者の思いは日頃の暮らしの中で把握するように努め、家族からは来訪時や電話で意見を頂いている。また、サービス品質向上委員会でアンケートを実施して満足度調査を行っている。日々の申し送りや毎月の職員会議・ケア会議等を通じて全職員が共有を図り、サービスに具体的に活かせるように努め、ご家族には来訪時や電話・毎月のお便り等で必要な連絡を行っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月ケア会議を行い、意見や提案を出す機会をもうけ、日ごろから職員とのコミュニケーションを図っている。	管理者は申し送り時や毎月のケア会議で職員の意見や提案を聞き取り、必要に応じて個別面談の場や食事会も企画するなど、日頃より話しやすい雰囲気づくりに努めている。得られた意見や提案を管理者や代表者で検討し、業務や提供しているサービス内容の見直しや改善につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	就業規則などの見直しを行いスキルUPに応じて人事の見直しを計画している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修や事業所内での研修に積極的に参加し、スキルUPに努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>城山会全体において、他事業所での意見交換を行い、質の向上に取り組んでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者・介護支援専門員が本人の自宅等を訪問し面談を行い、本人の要望・悩み等を聞く環境を作っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者・介護支援専門員が本人の自宅等を訪問し面談を行い、家族の要望・悩み等を聞く環境を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者・介護支援専門員が面談を行い、家族・本人と話し合いを行った後、職員の意見を聞き、併設施設の管理職や相談員に相談を行い検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と1日を過ごす中で、喜びや達成感を共に感じたり、昔ながらの行事や料理等を職員に教えて下さる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時、意見交換を行いお互いの精神的なつながりを深めようと努力している。また共に外出等へ参加して頂き、お互いの絆を大切にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所等を家族・本人に聞き、家族・職員とで連携を持ちながら支援に努めている。知人や友人も家族の了承を得つつでも面会が出来るように支援している。	利用開始時にこれまでの生活歴などを聞き取るとともに、本人や家族との会話から馴染みの人や場所を把握して支援に活用している。家族や友人・知人などの来訪時にはゆっくり談話できるように、また、電話や手紙の取り次ぎ、買い物や墓参り・一時的な帰宅・近隣のドライブ等を可能な限り支援できるように取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者が一人になりたい時は、居室に戻られゆっくりと過ごされる。また気の合う入居者同士で部屋の行き来したり、リビングにて過ごされ、入居者同士でも声を掛け合い協力される。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されたご家族より相談があれば必要に応じて対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメントを基に、日々のケアの中での聞き取りや会議を通じて情報共有している。	利用開始時の聞き取り情報や日常の対話や表情、また、定期的なアセスメントからも思いや意向を把握するように努めている。内容は申し送りやケア会議等で共有を図り、必要に応じて家族とも連携しながら対応を話し合い、本人のリズムに合わせた支援に結び付くように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人から話しを聞いたり、家族が面会に来られた時に情報をもろうようにして記録に残し情報の共有化を図っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケアの中で本人の過ごし方を知り、本人のリズムに合わせて出来る事を確認し共有化している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族・本人・ケアマネ・職員で話し合い意見交換を行う事で本人が求めるケアプラン作成に心がけている。	介護計画は本人・家族とケアマネジャー及び職員で話し合い、利用者本位のものを作成してサービス担当者会議で合意を得ている。ケアの状況は介護経過記録に詳しく記載し、定期的な評価や見直しとともに、利用者や家族の要望や変化に応じて、主治医や法人の看護師などの関係者とも確認しながら計画の修正を適切に行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを用意し、食事・水分量・排泄・バイタルや日々の様子などを記録し、変化のあった場合は、ケア会議などの話し合いと共に個々のケアプランの見直しを行っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院の支援・緊急時の入院・合同イベントの参加・外出・外泊、家族の相談などの支援も行っている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の消防署との連携を図ったり、学校の体験学習の受け入れ態勢を整えている。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医、嘱託医の受診の際、家族と協力しご家族が同行出来ない場合は職員の付き添い支援を行っている。また往診に来て頂くなど様々な医療機関との連携を取っている。	利用者個々の利用前の受診状況は十分に把握し、本人やご家族の希望するかかりつけ医の受診を適切に支援している。主治医による定期的な往診が多いが、通院は家族もしくは職員で対応している。また、法人の看護師とも連携して適切に利用者の健康管理を行い、家族や医師との情報交換も密に実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人看護師に相談しながら健康管理の支援を行っている。変化が見られた場合はすぐに報告指示を受ける。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退時には本人の情報を医療機関に提供し、職員もお見舞いに行き情報を得たり、家族や病院関係者との情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意見を踏まえ、事業所で出来る事、出来ないことを見極め医師との連携を図りながら納得した最期を迎えるようにして行きたい。	重度化や終末期のケアについては、「看取りに関する指針」で利用開始時に利用者と家族に十分説明して同意を得ている。様々な変化の都度、ご家族はもとより医師や職員、法人の看護師を始めとした関係者で十分に話し合い、ホームでの可能な限りの支援・対応ができる体制を築いている。また、外部の研修も活用して職員の知識や理解の推進にも取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	蘇生法・AED等の勉強会を行っている。また法人統一の急変時マニュアルにて周知徹底を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>GHでは毎月避難訓練を実施 法人でも年2回の日中・夜間想定 の避難訓練を実施し、協力体制 を整える。法人全体での備蓄 を確保している。</p>	<p>年2回は消防署や地域の民生委員の協力を 得て、法人全体で避難訓練や消火・ 通報訓練を行っている。また、毎月自 主訓練も実施して避難方法や通報の学 習、訓練後の話し合いも重ねており職 員の防災への意識は高いものがある。 スプリンクラーや自動通報装置等の設 備の充実に加え、法人全体で非常時の 食料や飲料水・備品を準備している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者のプライバシーを配慮し、個人的な話しがある場合は誰もいない所で話しをしたり、声掛けを行っている。	関連するマニュアルの整備や研修の充実とともに、利用者の誇りやプライバシーを損ねないように、丁寧な声かけや対応を申し送りやケア会議等で繰り返し確認して日々のケアで実践に努めている。居室や個人記録の保護にも十分な配慮がなされ、職場体験学習に際しても必要な対応を法人で適切に説明して受け入れている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は入居者と過ごす時間・会話の中で入居者の希望・関心・好みなどを感じ取りながら、希望の沿えるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の希望や体調に合わせのんびりした時間を過ごしながら、買い物や散歩、趣味活動を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	個々に合った化粧、服装をされている。馴染みの店で、パーマや毛染めをされる。ボランティアの美容師が月に1回来られる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の安全を確認し職員立会い調理している。また刻み食の提供や外出支援を行っている。	利用者も調理や食卓の準備・後片付け等、個々の力に応じた役割が担えるよう支援している。利用者の楽しみにつながるように、寿司の出前・弁当持参の外出・ソーメン流し・バイキングや季節の行事食、パンやピザ・梅酒・ラッキョウづくり、郷土料理の日の設定など、職員が話し合っって多くの工夫に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月1回体重測定を行うと同時に摂取量や体重の変化により併設施設の栄養士に相談している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い自分でされる方は職員にて確認。歯科往診・受診時にブラッシング指導をして頂いている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、定期的なトイレ案内を行っている。声かけの際職員はさりげなく行い、自尊心を傷つけないように配慮している。	利用者の様子観察や排泄チェック表・水分チェック表を活用し、個人の習慣や自尊心にも配慮しながら、より良いタイミングでの声かけに努め排泄の自立のための支援を行っている。法人全体の排泄委員会やケア会議等で、より良い排泄用品の選択も含めて利用者個々に合った取り組みを話し合い、羞恥心や不安・安全等にも配慮して支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給ゼリーを毎日摂取して頂いたり、家事動作等で身体をうごかす機会を設け、自然排便を心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	曜日や時間はある程度決めてしまっているが、なるべく個々の意見を尊重し支援を行っている。	利用者の体調や安全に配慮しながら、個々の希望になるべく沿った支援に努め温泉を楽しんで頂いている。入浴を拒否されるような場合には、言葉かけの工夫や職員の交替、時間帯の変更などで利用者の気分を落ち着かせ、ゆったりと誘導するように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中家事動作を行い、出来るだけ体を動かして頂いている。中々寝付けない方には温かい飲み物の提供や話を聞いて安心していただける環境を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診時主治医より説明を受けている。また薬に変更があった場合は職員全体に伝わるように周知徹底されている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事が得意な方は料理・洗濯・掃除等を自発的にしてくださったり、趣味をいかし生花をされている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	散歩をかねて桜島を見に行ったり、個々の要望に応じての買物支援を行っている。	利用者の希望は日常会話を通じて把握に努め、地域や小学校の行事も含め、初詣・季節の花見・外食など、可能な限り工夫して支援に取り組んでいる。日常的には、散歩や日光浴・買い物・近隣のドライブ・墓参り・一時的な帰宅等、外出が楽しみになるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>自己管理できる方には個人管理して頂いている。入居時に、本人・家族と相談し金庫にて保管し金銭出納帳をつけている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話利用時は、子機を居室に持っていき、プライバシーの配慮を行っている。手紙等も自由に書けるよう支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>リビングの飾り付けは、親しみやすい物や作品、外出時の写真などを飾り、五感や季節感を取り入れる工夫をしている。</p>	<p>ホームは桜島を望める見晴らしの良い高台に位置し、散策や外気浴に適した環境にある。利用者が一日の多くの時間を過ごすリビングは、温度や湿度・清潔感などにも十分配慮され、季節の花や手作りの多くの作品・行事等の写真などが飾られて居心地良く過ごせるように工夫されている。また、玄関近くの花壇には、利用者ひとり一人の鉢植えの花とともに、季節の花や野菜が栽培されている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>入居者が一人になりたい時は、居室に戻られゆっくりと過ごされる。また気の合った入居者同士で楽しめる空間をリビングに確保している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れた家具を持って来られる方もいらっしゃる装飾品等は希望に応じて配置している。家族の協力が得られにくい時は職員と入居者が居室作りに取り組んでいる。</p>	<p>管理者や職員は利用者個々の居室の環境づくりにも気配りしている。エアコンやベッド・タンス・洗面台はホームが準備したものであるが、利用者が使い慣れた日用品や家具などを自由に持ち込んで頂き、本人が自分のペースでゆったりと過ごせるように支援している。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>日常生活の中で生活リハビリを行い機能を活かしながら、身体機能を維持出来る様に務めている。滑り止めマット・テープ等を使用し入居者の不安を取り除いている。</p>			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	法人全体の理念に加え、わかりやすい言葉で地域との絆を念頭においた副理念に基づき各職員が目標を立て日々のケアに取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	立地、地域との交流が難しい面もあるが、地域の小学校の行事や法人主催の夏祭りに地域の方を招待し、交流を図る。		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	運営推進会議時、地域・家族の方々から相談を受けている。また認知症サポーター養成研修も地域の方と一緒にいった。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の会議で各関係者の情報交換を行いサービスの向上に活かせるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>介護相談員の受け入れや包括支援センターへの訪問や連携、市役所の担当者との連携を取り、助言や指導を頂いている。</p>			
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束委員会を作り拘束のないケアに取り組み、話し合いを行なっている。</p>			
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>勉強会を行ない虐待のないよう注意を払っている。</p>			
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>権利擁護に関する勉強会を開き職員の周知徹底を行っている。</p>			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時の契約の際、説明を行い同意を得ている。また不安や疑問点があれば十分な説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関に意見箱を設置している。面会時や運営推進会議などで意見を出してもらっている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月ケア会議を行い、意見や提案を出す機会をもうけ、日頃から職員とのコミュニケーションを図っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	就業規則などの見直しを行いスキルUPに応じて人事考課の見直しを計画している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修や事業所内での研修に積極的に参加し、スキルUPに努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会への参加や研修会等に参加し、ネットワーク作りを行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>管理者・介護支援専門員が本人の自宅等を訪問し面談を行い、本人の要望・悩み等を聞く環境を作っている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>管理者・介護支援専門員が家族の自宅等を訪問し面談を行い、家族の要望・悩み等を聞く環境を作っている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>管理者・介護支援専門員が面談を行い、家族・本人と話し合いを行った後、職員の意見を聞き、併設施設の管理職や相談員に相談を行い検討を行っている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>一方的な支援にならないように、知恵をもらいながら共に日々を過ごしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や家族会の時に、意見交換を行いお互いの精神的なつながりを深めようと努力している。また共に外出したり行事等へ参加して頂き、お互いの絆を大切にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所等を家族・本人に聞き、家族・職員とで連携を持ちながら支援に努めている。知人や友人も家族の了承を得つつも面会が出来るように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者が一人になりたい時は、居室に戻られゆっくりと過ごされる。また気の合った入居者同士で部屋の行き来したり、リビングにて過ごされ、入居者同士でも声を掛け合い協力している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方の相談にも応じ情報提供を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	定期的にプランの見直しを行い、本人や家族の希望に添うように努めている。ケア会議を行ないその人にあったケアに努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人から話を聞いたり、家族が面会に来られた時に情報をもろうようにして記録に残し情報の共有化を図っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケアの中で本人の生活パターンを知り、他の職員との情報の共有化を行ない本人のリズムに合わせて出来る事を確認している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議やサービス担当者会議で意見を出し合い、統一したケアが出来るようにケアプランの作成を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録やモニタリング、ケア会議での話し合いを基にケアプランの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院の支援・緊急時の入院・合同イベントの参加・外出・外泊・フットケアや家族の相談などの支援も行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の消防署との連携を図ったり、学校の体験学習の受け入れ態勢を整えている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医、嘱託医の受診の際、ご家族と協力しご家族が同行出来ない場合は職員の付き添い支援を行っている。また往診に来て頂くなど様々な医療機関との連携を取っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護師に相談しながら健康管理の支援を行っている。変化が見られた場合はすぐに報告指示を受ける。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時病院へサマリー等の情報交換を行なっている。病院や家族にも情報を得るようにしている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>本人や家族の意見を踏まえ、事業所で出来る事、出来ない事を見極め医師との連携を図りながら納得した最期を迎えるようにして行きたい。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>応急手当の勉強会を実施し、蘇生法・AEDの勉強会を行なっている。法人統一の急変時マニュアルにて周知徹底を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>GHでは毎月避難訓練を実施 法人でも年2回の日中・夜間想定 の避難訓練を実施し、協力体制 を整える。法人全体での備蓄 を確保している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>入居者のプライバシーを配慮し、個人的な話しがある場合は誰もいない所で話しをしたり、声掛けを行っている。また個人記録の保管場所も統一している。</p>		
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>職員は入居者と過ごす時間・会話の中で入居者の希望・関心・好みなどを感じ取りながら、希望の沿えるよう支援している。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>入居者の希望や体調に合わせのんびりした時間を過ごしながら、買い物や散歩、趣味活動を行っている。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している</p>	<p>個々に合った化粧、服装をされている。馴染みの店で、パーマや毛染めをされる。ボランティアの美容師が月に1回来られる。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>職員と共に調理を行い、配膳や下膳台拭きなどの手伝って頂いている。誕生日には好みの献立を作っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取、水分摂取のチェックを毎日行い、食事形態や嚥下の状態を確認しながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い自分でされる方は職員にて確認。歯科往診・受診時にブラッシング指導をして頂いている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、定期的なトイレ案内を行っている。声かけの際職員はさりげなく行い、自尊心を傷つけないように配慮している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給ゼリー・牛乳を毎日摂取して頂いたり、家事動作等で身体を動かす機会を設け、自然排便を心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	曜日や時間はある程度決めてしまっているが、なるべく個々の意見を尊重し支援を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中家事動作を行い、出来るだけ体を動かして頂いている。中々寝付けない方には温かい飲み物の提供や話を聞いて安心していただける環境を提供している。月1回のフットケアを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の内服薬の内容を全職員が回覧できるようにし、効能を理解した上で、看護師の指示の元服用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事が得意な方は料理・洗濯・掃除等を自発的にしてくださったり、趣味をいかし書写や生花をされている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	個人的に散歩に行ったり、外出の場所の希望をとって計画を立てたり、家族との外出を協力して頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>自己管理できる方には個人管理して頂いている。入居時に、本人・家族と相談し金庫にて保管し金銭出納帳をつけている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>年賀ハガキや暑中見舞いのハガキなど自由に出す事ができる。電話等も掛けられるよう支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>掃除や臭いにも気を使い、快適に過ごせる様に配慮している。季節の壁画やカレンダー等 展示物 作品などで喜びを感じ取るよう工夫している。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>入居者が一人になりたい時は、居室に戻られゆっくりと過ごされる。また気の合った入居者同士で楽しめる空間をリビングに確保している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人の大切な思い出の作品や愛用品など、安全性を確認した上で、自由に持ち込めるようにし、安心して暮らせるようにしている。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>建物内はバリアフリーで、廊下やトイレには手すりをつけ、居室前には花の名前がつけられ覚えやすくしてある。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない